

C-21 農家主婦家事労働時間の配分構造

第2報 最近の動向

福島大 岡村 益

1. 地方小都市近郊農村における経営階層別事例研究の継続である。経営規模に対応した経営形態の変化により、また家族構成ひいては婦人労働力の構成によって主婦の労働特に家事労働への配分状況がどう変化するかを確かめ、さらに家事労働時間を規制する要因に接近しようとする。

2. 対象は既報に同じ福島市仁井田地区の階層別農家4戸の主婦である。調査時期は昭和39年3月および5～6月で、繁閑各時期とも平日3日ずつ、主婦の生活行為を追跡記録し、行為配分の変動および平均値をみ、家事労働時間についても、時間の長さ・衣・食・住・家族の世話・経営関係等への配分状況および農家の自給面を示す自給のための時間等への配分状況を調べた。

3. 前回調査に比し、家事時間比率が僅かながら高まり、生産負担比率がやや減少の傾向がみられた。また家事労働時間の内容については、裁縫等の被服管理時間の減少が顕著で、買物・記帳などの経営的時間の比率がや

や増加した。炊事時間は比率は大差ないが量的に増加の傾向がみられる。一方各農家では、石油コンロやカマドからプロパンガスへ、また電気洗濯機の導入など生活手段の高度化および姑の老齢化に伴う主婦の家事参加度の増加や、嫁から主婦への地位の変化など物心両面にわたる条件の変化があったので、これらの条件の影響が時間配分上にいかなる仕組みであられたかを考察する。